

案件名「第3次垂水市食育・地産地消推進計画（素案）」

受付番号	対象項目	意見等の概要	市の考え方
1	第4	食育関連の写真(イベント等、学校給食、児童・生徒など)が掲載されていれば、より垂水市の取組が伝わると思いました。	当市の取組をより理解していただけるよう、小学校の田植え体験のようすや親子食育イベント時の写真を掲載いたします。
2	第4	給食だけでなく、小中高の家庭科の授業で垂水産の食材に特化し、伝統のメニューを作るようなことはされているのでしょうか。ただでさえ親から子に料理を教える機会が減っているように感じているので、市報に掲載されているような垂水ならではのメニューを子どもたちに引き継いでいってほしいです。	<p>当市の学校給食では、これまでにたとえば「がね」、「煮しめ」、「豚汁」、「さつま汁」、「いもち」、「かねん団子汁」、「青のり汁」、「さつますもじ」、「ぶたみそ」、「たんかん」、「びわ」、「つらさげいもの焼きいも」、「ぶりあらで作るぶり大根」、「柘原大根で作る煮しめ」などを垂水の食材を利用して献立にしております。</p> <p>ご意見に対する本計画の修正は行いませんが、学校給食も大切な教育の一環でございますので、郷土食や果物など季節に応じた地場産の食材を利用した献立づくりを継続し、市内産食材を納入してくださるたるみず楽農百笑倶楽部のご協力もいただきながら食文化の継承につながる取組を進めてまいります。</p>

案件名「第3次垂水市食育・地産地消推進計画（素案）」

受付番号	対象項目	意見等の概要	市の考え方
3	全体	<p>食育に関して、本市の計画案でもSDGsに関して言及し、基本目標として「環境と調和のとれた持続可能な食料生産と消費の実現などを推進します。」とあることは持続可能な社会づくりを進めるうえで重要な視点ではないかと思えます。</p> <p>国においては「第4次食育推進基本計画作成に向けた主な論点」の中で今後の食育推進の視点として、「食料の生産から消費に至る持続可能な食の循環などの各課題を連携した視点を持って進めていくことが重要である。」と記載されています。</p> <p>本市の計画においてもこの環境教育の視点からの食育をもっと取り組んでもよいのではないのでしょうか。</p> <p>例えば、旬の野菜を食べることが栄養面の他にも地球環境に良いことや、エコロジカルフットプリントやバーチャルウォーターの面からみても地産地消を進める事が持続可能な社会をつくることに繋がり、SDGsの気候変動はもちろんのこと水・衛生やエネルギーに繋がることを伝えることは大切なことではないのでしょうか。食育と環境教育は相性がよいと言われています。持続可能な社会をつくっていくためにも環境教育の視点からの食育に力を入れてもよいのではないのでしょうか。</p>	<p>環境教育の視点からの食育につきましては関係部署や教育機関との調整が必要であると考えられます。たとえば現在でも行っている小学生の稲作の体験を通して、田んぼの水がどこから来るのか、生き物はいたか、季節はどう変わったか、お米ができるまでの田んぼの管理者は自然とどう向き合っているかなど、子どもたちは農地周辺からさまざまなことを実地に学び、成果のひとつとして自然や食べ物、生産者に対する感謝の心を育てています。</p> <p>ご意見に対する修正や追加記載は行いませんが、子どもたちのために絶えず旬の食材を採り入れる努力を続ける当市の学校給食や、その食材を納品する垂水楽農百笑倶楽部のかねての活動も、社会の持続可能性を高めることにつながると考えられることから、今後もこうした取組の継続が大切であると考えており、本計画でも各施策を進めてまいります。</p>
4	第4	<p>食育推進として親子で味噌作り、地産地消の材料を使ったレシピを考え、料理教室を開催し地域の小学生とその家族との交流など行ってきました。</p> <p>一年に2回と数は少ないですが、活動していきたいと思えます。(生活研究グループ)</p>	<p>ご意見に対する本計画の修正はございません。</p> <p>本推進計画を実行するにあたって、肝属地区生活研究グループ垂水支部は欠かせないパートナーであると考えております。</p> <p>現行の第2次計画期間中は年2回の親子イベントの開催を中心に活動していただいておりますが、その際も地元農業者のご協力で旬の食材を利用し参加者からも大変喜ばれております。</p> <p>素案9ページに記載のとおり、取組にあたっては、現段階では新型コロナの動向が予想できないため、より実現性の高い取組手法を柔軟に検討していただきながら、ともに活動していきたいと考えております。</p>

案件名「第3次垂水市食育・地産地消推進計画（素案）」

受付番号	対象項目	意見等の概要	市の考え方
5	第4	「食事バランスガイド」の周知を60%と高めるための「普及・啓発」の具体が見えないので、その実現のための具体策を推し進めてほしい。	「かごしま版食事バランスガイド」につきましては、現行の第2次計画期間における親子食育イベントなどで参加者に配布してまいりましたが、令和2年度には、生活研究グループ垂水支部と連携し、市内各小学校のご協力をいただき、市内全児童に対し「かごしま版食事バランスガイド」を配布させていただき、ご家庭において活用されるよう期待しているところです。 今後も、目にする機会を設け、あわせて活用方法などもお示しできるよう、工夫した取組を進めてまいります。 ご意見に対する本計画の修正はございません。
6	第4	高校生の朝食の摂取を高めるための手立てに期待します。数値目標の100%に近づいてほしい。	前回5年前の食育アンケートよりも数値が悪化した世代がございました。さまざまな媒体を用い、朝食を摂ることの大切さについて、子ども向けだけでなく、ご家族に向けた啓発を行うなど取組を進めてまいります。 ご意見に対する本計画の修正はございません。
7	第4	垂水産を使う9%と低いですが、それを少しでも高めるための手立てに期待します。	過去の分析で、地元産にこだわらなくても、そのときどきで旬のものを積極的に取り入れ、子どもたちにおいしいものを食べさせたいという考え方もあるようです。 市内2つの道の駅をはじめ量販店内の地産地消コーナー、新城おたけどんの郷など、四季を通じて地元産の食材を購入できる場は充実していますので、味や品質の高さをアピールする取組等を通じてご指摘の割合を高めていくことを工夫してまいります。その意味でも、第5数値目標に掲げましたかごしま地産地消推進店登録数の向上に努めてまいります。 ご意見に対する本計画の修正はございません。
8	第3	SDGsのP10の3、4、12のターゲットをみたが、どのターゲットにつながっているか分からなかった。P10の下の3つが弱いと思う。今後の推進を期待します。食は大切なので。	ご意見のとおり、わかりづらい表記となっておりましたので修正することといたします。16ページ第5に掲げた数値目標の中で貢献が期待されるSDGsを表示することといたします。